障害者の社会参加を目的に創られたボランティアグループ（組織）がボランティアと障害者を押し倒しながら自己増殖に努めた例は多い。

イベントをするたびに障害者をほったらかしにして、イベント優勢につき進む。組織は、組織を防衛し、組織を創った人を防衛しなくなる。〔これをボランティアのタコツボ化〕といいます。

フィクション

20××年政権政党は、地方自治法の全面的改正法案を上程した。一般に新地方自治法案といわれるこの法案は、1947年から施行されてきた日本の地方自治の枠組みを大きく変更するものだ。

この法案で、都道府県はすべて廃止される。都道府県にかわって、全国を9つのブロックに分け総合地方庁が設けられることになる。

市町村は一応存続する。しかし、大合併が行われ全国に1000程度の市町村が置かれることになるだろう。

市町村の仕事の多くは、民営化される。電話の契約と同じように、市民は例えばゴミの収集について複数の会社の中から適当なところと契約することになる。

昔、民間委託が大きな話題を呼んだことがあったが、ゴミの収集処理そのものが自治体の仕事ではなくなる予定だ。これは、一例にすぎない。これまで市町村が行ってきた仕事の多くが民営化される。

さすがに小中学校の完全民営化は取り止めになった。設置は自治体の責任とされるが、運営はそれぞれの学校の独立採算となる。

高校は、高等学校管理基金によって設置され、運営はやはり独立採算となる予定だ。既に、7年前に、国立大学は全て独立採算になっており、駅弁大学といわれた大学の中には廃校となったところもある。

全国社会福祉協議会、都道府県社会福祉協議会、それに全国3200市町村の社会福祉協議会は……

××××××××××××××××

考えてみれば、あれを創れこれを創れといっていた時代は良かった。

自分の懐だけでやっていかなくてはならないこれからは、大変だ。

〈連載〉社協サポーターに拍手喝采

市町村社協の理事や評議員といった立場で、社協事務局を支え、日夜奮闘いただいている方々にご登場願い、思いの丈を語ってもらう企画です。

第5回目は、「八女市にこの人あり」と言われる八女市議会議員の山下恭平さんです。

過激な中にも本音がチラリと見える山下さんの言葉に耳を傾けてみては？

あなたの福祉観に問いかけます。

山下恭平さんにインタビュー

質問1　山下さんが社協で活動されるようになったきっかけは。

私が障害者というのが一番のきっかけです。1982年から、八女むらまつりを市社協に援助してもらうように頼みに行ってからのつきあいです。それからは、ボランティア、職業訓練生、臨時職員、嘱託職員、理事と社協の出世魚ブリのようです。社協とのつながりは、ボラ連会長時代から、より深くなってきたと思いますが、それが全てのまちがいの始まりでした。…笑

質問2　八女のボランティア活動の現状を教えてください。

高校生の組織化をおこなっています。また、八女ボラ連の会員は現在300名で、市外の人もありとあらゆる人が参加しています。会費100円を払っ

たら永久会員ですので、一度接触があった人は、スッポンのように離しません。このような八女ボラ連に対する個人のかかわりから、介護者の確保につながっています。これを私は、サポーターハンティングと呼んでいます。

質問3　社協とボランティアセンターの関係をどう考えられますか。

ボランティアセンターは、社協の除湿機、もしくは日本道路製作会社と思います。その心は、社協のゴミを取り除いたり、ボランティアが新しい道を作っていくものだと思います。やはり福祉では社協が主体であり、ボランティアセンターは主体にはなれないのです。そして、これからのボランティアセンターは、在宅障害者の支援、福祉資源開発、福祉人材の養成所とならないといけない。そのうちボランティアセンターの中から、ヘルパーさんが発生してくると思います。社協とボランティアセンターは、車の両輪で、病院や土日の対応など行政や社協ができない活動ができるのです。そのことが、社協を変え機関委任事務から団体委任事務となっていくのです。COというと社協マンはコミュニティオーガニゼーションと思いがちですが、私は、一酸化炭素中毒に社協マンがなっているのではと思います。

質問4　社協が事業型化していくなかで、公的介護保険でも高齢者中心となっています。障害者という立場でどう考えられますか。

障害者にしても、高齢者にしても、介護に異質性はないのです。しかし、障害者が介護保険で区別されることは歓迎することかもしれません。障害者は障害者のための施策が作りたいのです。障害者を意識して欲しいと思います。

この介護保険では、判定を行政がするようですが、不自由の専門家である私たち障害者にまかせてもらいたいと思います。判定が一番問題になると考えています。

質問5　山下さんが議員になられて八女市が変わったところ、変えたいところを教えてください。

私が議員になって、議員のなかで車椅子介護ができるようになった人が3人。尿器をすすいでくれる人が4人です。こんなに変わりました。一番変わったのは、当事者の意見が反映されるようになったことです。一番の例が、ガイドヘルパーの導入です。

それと議員さん自身が介護の体験ができる。しかし、課題が多すぎて私が議員を100年しても変わらないでしょう。それでも意識して議員さんに介護を頼むようにしています。

質問6　県内の悩める社協マンに一言お願いします。

社協は行政に対するコンプレックスがあると思います。社協に自治権がないのが問題です。社協マンは、社協に頼って来る人達のことばを行政に伝える代弁者です。いわば被告に対する弁護士のようなものです。行政は、住民の声は、無視できないし一番怖いのです。社協は福祉のプロで、行政よりも福祉にくわしいはずです。その意識をもつこと、自信をもつこと。そのことは経理をしている人でも同じことで、住民からみれば、社協の人は福祉のことは何でも知っている人なのです。福祉の専門家になることで行政の出向も減るのではないでしょうか。社協は行政もどきじゃなくて、民間であるべきなのです。現在悩んでいるあなた。あなたのまわりには、様々な活動を頑張っている人がいます。そして困っている人も。悩んでいるひまはない。「悩んだらは」ないのです。障害者を知れ。仲間は社協だけじゃない。明るい未来のために頑張ってください。

フリー○○○○○○トーク

「あいだがら」

須恵町社協　岐部　健一

毎年のことですが、私の4月から11月までのほとんどの日曜日は、野球SUNDAYとなってしまいます。

小学生の頃から少年野球をはじめ、高校野球を終了するまで野球一筋だったせいもあるのでしょうが、頼まれると断われない性格も手伝って現在は4チームに顔をつっこんでいます。

おかげさまで、いろんな方と知り合いになれました。工務店の専務さん、瓦屋さん、中古車屋の社長さん、電気屋さん、葬儀屋の息子、飲屋のマスター、プールの監視員、看護士等々。年齢や職業は違っても一旦ユニホームを着てグランドに出れば先輩、後輩はありません。

私はキャッチャーですが、キャッチャーは位置的に試合中にあっちこっちに指示を出さなくてはいけないポジシ

ョンなんです。これがキャッチャーの大変さでもあり役得な面でもあるんです。

指示をする時は、もちろん敬語なんかつかいません。仕事上、頭も下げてお願いすることが多い中、この時、とばかりにストレスを発散させます。外野からの返球がそれて相手の得点にでもなろうものなら、「しっかりかえさんか」ぐらいは当り前で、「なんばしようとや」「どこにかえしようとや」等と文句ともとれる指示を出すわけですが誰一人として不愉快な顔をする人はいません。

それは、たとえ草野球であっても勝つ目的は皆同じ?であり、勝つためにはミスを少なく、締まった試合をしなければ勝てないということを皆知っているからなんでしょうが、そうは言っても草野球にエラーはつきもの、珍プレーの連続です。そこで私のストレス発散の場が台本通りにセッティングされるわけです。

試合が終って勝っても負けても、反省会という名の「飲み会」があります。

私はほとんど飲めないのですが、必ず出席して言いたいことをいうようにしています。

《ある試合の反省会から…》

「○○さんは、一番大事な場面で大きなエラーをし、チームを負けに導きました。(笑)しかし、キャッチャーである私のストレス発散の場を毎試合必ずセッティングしていただく○○さんの優しさには、深く感謝しています。(笑)

相手を思いやる気持ち、尊重する姿勢は、福祉関係に従事する私にとって大変勉強になります。」(大笑)

最後に、野球を通じて知り合いになった方々との「あいだがら」を大切にし草野球を今後も続けていきたいと思います。当分の間、私のストレス発散の場はなくなりそうにありません。あーよかった。

仁義なき戦い

田主丸町社協　林田　稔男

「今日は寒かねえ。」この言葉が聞こえる頃になると思い出す一人の老婆。八十代のこの老人は、一人暮らし。畳一枚ひかれていない部屋には、布団替わりの四枚の座布団と尿を入れるバケツがあるだけ。家の中には雪が降る日は雪が舞い込み、風の吹く日は木枯らしにのって枯れ葉が舞い込む。使われていない五右衛門風呂には枯れ葉が半分以上も降り積もっている。半身に麻痺の残る体で作る食事も白御飯にイリコをのせただけの粗末なもので、それをへこみだらけの鉄製の器に入れて食べる。もちろん入浴など、ここ数年行っていないとのこと。暖をとる道具というと、小さな火鉢式のこたつに、薄っぺらの毛布一枚のせただけ。

十五年前、社協へ就職して間もない頃の福祉の現状である。特老ホームの建設ラッシュの時代である。ヘルパーの訪問が開始されたものの、この老人の現状をみて、在宅なんて考えられない、病院なんてかかったこともないし、入院なんてもってのほかのこの老人、開始早々の施設を利用しての我が町の入浴サービス。これしかない、入浴を勧めよう。結論に達した弱小社協の新米社協マンは、何度も訪問を繰り返し、やっとのことで、「行ってみろかの。」の言葉を得られた。

「ばあちゃん寒かねえ、ぬうくかお風呂に入ろうか、お風呂入ったら帰って来ればよかけんね、またつれて帰ってくるけん。ね、ね……。」

ふと見ると、老人の頬に一筋の光るものが。あんたにゃ負けたばい、とでも言いたげに、うつろな目を私に向けにこっと笑ったあの笑顔。

それっきり、この老人は施設の人となった。数ケ月後、その施設を訪れた私は、春の陽光につつまれたテラスで車イスに乗った老人と再会した。私の顔をじっと見ている。心なしか赤みの増した頬は、光を映しピカピカに光っている。「ばあちゃんどげんね。ここは良かろ。」と尋ねた私に返ってきた言葉は、「ほんに良か、ぬうくなって天国に来たごたる。」

それから、一ケ月程して訃報が届く。

最近、〝終末ケア〟なる言葉をよく耳にするようになった。この四月に久々に社協事務局へ戻ってきた私、数ケ月経ったある日、民生委員と役場の担当係長が社協へこられ、これこれこういう理由で退院されて、在宅になられるのでヘルパーさんをお願いします、とのこと。六十代後半のこの男性、胃がん、それも末期がん患者であるとの情報。この時初めてこの言葉を聞き及んだのだが。便とゴミまみれ、食事も満足に取らないこの男性、一ケ月程の一人暮らしの在宅生活の後、再入院。自分で歩けない程に弱った男性を病院へ送る車中、民生委員や行政、ヘルパーに対する苦言ばかり、降り際にもらした言葉が「地獄のごたった、ほんなこつ。」間もなく訃報が届く。

在宅にも限界がある。対象者の最後の言葉が処置の良否を物語っているような気がしてならない。福祉は変わった、実感する毎日である。

うちの常連さん

立花町社協　中村　哲也

社協業務にこだわらず、つらつら考えていることを書くようにということだが、いざ書こうとすると何もうかんでこない。

終わり。というわけにもいかないので、事務所がある老人憩いの家に来ている常連さんのことについて書きたいと思う。

多分、憩いの家が出来た当初から来ているであろうおじいさんがいる。事務所内では通称「赤じいさん」と呼ん

ている、この正月で満一〇二歳になったおじいさんだ。

赤い帽子に赤い服、今は赤いマフラーを首に巻き毎日憩いの家に遊びに来ている。それも一キロはある自分の家から歩いてである。さすがに最近は家族の方も近くまで見送りに来てあるがまだまだ足どりも軽く、スタスタ歩いている。いっしょに歩いたら負けるかもしれない。

この赤じいさんは、ゲートボールが好きである。他の常連さん達とチームを組んで、楽しそうにやっている。ただ、ちょっと耳が遠いので、同じチームの人から「こっちに打って。」とか、「そっちに打ったらいかん。」とか言われても全然分からない。自分の打ちたいようにポンポン打っている。それでよく怒られているが、聞こえないから平気なのか本当に楽しそうだ。

また、テレビを見るのも好きらしい。朝、憩いの家に来るとテレビの前に自分の椅子をもってきて、すぐにスイッチをひねっている。他のお客さんが見たい番組があってもなかなかチャンネルはゆずらない。なにしろ、このテレビは赤じいさんが憩いの家に寄付したもので、自分のテレビと思っているわけではないのだろうがガンコである。今はイヤホンをつけて見ているが、以前は映画館のような大音量で見ていたので、事務所までうるさかった。

こういう感じで、憩いの家で一日すごしているわけだが、一番すごいと思うのは、病気にならないことだ。私が社協に勤めて七年程たつが、その間、カゼひとつひいていないのではないだろうか。

人生八〇年といわれるが、このおじいさんを見ていると人生一〇〇年といわれる日がそう遠くはないと思えてしまう、そんな「赤じいさん」だ。

こどもたちからの警鐘

新吉富村社協　沼野　淑子

「私は傷をもっている。でもその傷のところからあなたのやさしさがしみてくる。」

部屋に下げたカレンダー。うす黄色の可憐な花のスケッチに小さく添えられた片すみの詩。毎日々々、日々の私をなぐさめて明日への勇気をくれる。いらだつ心を静めて、やさしい気持ちにしてくれる。

星野富弘さんのことを知ったのは、もうずい分前のことになるけれど、あの出合った（実際にはまだ一度もお目にかかったことはないのだけれど）時の、何とも言いようのない感動はいつまでも心に残っている。星野富弘さんのことばや詩から、星野さんの確かな「いのち」がやさしく、厳しく、私に問いかけ語りかけてくれる。

生きることへの挫折と絶望。その渕から愛を知り、生かされている「いのち」を知る。星野さんの確かな「いのち」の息づきが伝わってくる。

○

最近、続けてまた二人の中学生が自らの命を絶って遠いところへ旅立っていった。同じ世代のこどもの親としてもこの現実はたまらない。無念さと後悔と自責の念に一生縛られても、愛する我が子はとり戻せない現実……。

十代の限りない未来が約束されているはずのこどもたち。その死に様は、あまりに切なくて痛ましい。

「生きていることが、ほんとにつらかったんだろう。」

「死ぬことで自分を楽にしたかったんだろう。」

たった十何年かしか生きてない人生、人生と呼ぶにはあまりにも短すぎる時間の中でそんなに深い絶望を味わってしまったなんて……。みんな、私たち大人の社会の責任なんだ。

「ほんとうにごめんね。」

○

世間やマスコミが、今の日本は戦争もなくて平和で幸せだなんてよく言ってるけど、ほんとにそう言えるんだろうか。いじめや差別があって、こどもたちが絶望している社会のどこが平和って言えるんだろう。

この前、長崎に住んでおられる松尾敏さんが、こちらの方までお話をしに来られた折、「いのちが平等に扱われて真の平和といえる。」という内容のことを言われた。このことばを真摯に受けとめたい。今、こどもたちの鳴らす警鐘に耳を傾けて、大人たち自らが社会のあり様の非を問い直さなければ、この社会全体変わってゆくはずがない。

と、言いながらどこか自分も虚しくなってやりきれない。もっと正直に言ってしまえば自分の無力さを恥じている。

○

我が子を含めてこどもたちに知ってもらいたい。生かされているいのちの尊さといのちを愛すること。同じ様に自分のいのちも愛され、かけがえのない尊いものだということを。

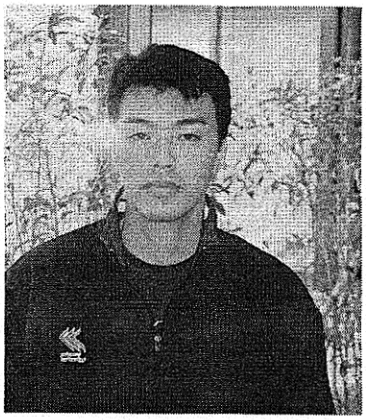
○

二月、三月、四月になって、れんげの花が風にゆれる頃、星野富弘さんが大分市に来られるらしい。四月九日～二十一日に大分県立芸術会館で、「花の詩画展」が開かれる。その初日だけお会いできるかもしれないと聞いた。

多分、何も話せないで遠くから見てるだけに終りそうだが、とても楽しみにして待っている。

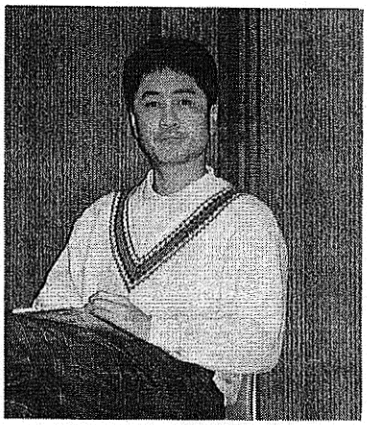
志摩町社協　加藤　博貴

○経験年数　六カ月
○特技趣味　パチンコ・プレイステーション・読書(マンガ)・陶芸・釣り
○セールスポイント　笑顔（カックイイ・シャイなのであまり見せないが見た人は幸福者）
○メッセージ
まだまだ右も左も分かりません（社協内で方向○ンチと言われている）。競艇で言えば、予選の六人には入りましたが、コース取りできずに六枠から出おくれ状態です。(トーシロってこと、期待してくれる人から罵声がとぶ)
あえて諸先輩の皆様にメッセージすることは、ドラフト外で入ってきましたので、いつ戦力外通知を出されるか毎日ビクビクしていますのでよ～くかわいがって下さい。(特定の人には言ってません）ところでパチンコ負けっぱなし連続挑戦中を止めてくれる方どなたかいませんか？



香春町社協　井上　誠

○経験年数　二年六カ月
○特技趣味　バスケットボール
○セールスポイント　明るい
○メッセージ
平成五年八月に香春町社協に入り福祉活動専門員として従事してきましたが、二年が過ぎた今、毎日の業務の中で専門員としての役割を十分に果しているか又、町民のニーズに対し一つでも多く応えられるよう努力しているか反省の毎日です。
香春町社協は香春町地域福祉センター「香泉荘」に事務所を置き、町の委託を受けデイ・サービス事業を実施していますが私自身、学生時代に福祉の勉強をしたわけではないので、毎日が初めての経験でした。
お年寄りとの出会いは大変貴重な事で、学校では教えない多くの事を学べ日常生活等で役立つ事がありました。今後も高齢者を介護すると言う理念ではなく、互いを必要とする生活を確立していきたいと思います。
専門員として分からない事が多く皆様方にお世話になると思いますが宜しくお願いします。



金田町社協　柳沢　敏彦

○経験年数　五カ月
○特技趣味　映画鑑賞、バイクにも時々、時間を見つけて乗っています。
○メッセージ
私は、金田町社協に福祉活動専門員として入りました柳沢敏彦といいます。社協に入る前は、施設で介護職員、相談指導員としてお年寄りの方々のお世話をさせて頂いていました。
社協で働くようになって五カ月程経ちますが、日々の業務に追われているというのが現状です。
そんな中、職場の上司、先輩方の暖かい御指導を受けながら、色々なことを勉強しているところです。
「福祉」とは、全ての人々が、幸せになるためのお手伝いをする仕事ではないかと思っています。
私一人では微力で何も出来ませんが、色々な方々の御指導、御協力を賜りながら、少しでも皆様のお役に立てるよう頑張っていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

編集委員からひとこと

まなこ編集委員のお役もあと一年。早く読むだけの専門員に戻りたい。　楽子

今、私の一番の楽しみは二人の息子と一緒に風呂に入ることと…つづく。㊟
私は福祉センター職員ではなく社協マンでありたい。　久留米社協　古賀
明日から一泊で宮崎へGO！どーか雪など降りませんよーに!!　（誠）
人の原稿を読んで、「自分の日常生活を改めよう」といつも思ってしまう自分が悲しい。　㊟
紅一点、専門員の専門性、社協とはと振りかえる楽しい時間でした。M・M
専門員になって二年目で初めての編集委員。教わることが多いです。（和）
原稿を依頼して心よく引き受けて下さった方々、ありがとうございます。
今度、編集委員になっても私には、原稿を回さないで。　白石英治